

[午後の部]

試験実施の注意事項

=====

➤ この試験会場では、次に示す 3 つの資格検定試験を実施する。

地質調査技士資格検定試験／応用地形判読士資格検定試験／地質情報管理士資格検定試験

➤ 試験実施にあたっては、次に示す試験の実施時間、各試験共通の注意事項および受験する資格検定試験の注意事項を確認すること。

=====

試験の実施時間

試験種類	午前の部	午後の部
地質調査技士資格検定試験	午前 9 時 30 分～午後 12 時 30 分	午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分 ※現場調査部門は口答試験を実施
応用地形判読士資格検定試験	午前 9 時 30 分～午後 12 時 30 分	午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
地質情報管理士資格検定試験	午前 9 時 30 分～午後 12 時 30 分	なし

各試験共通の注意事項

- (1) 筆記試験は、全国統一試験問題として一斉に行う。
- (2) 試験開始後 1 時間は、退場を認めない。
- (3) 試験実施にあたり、落丁や乱丁のないこと、また印刷の不鮮明な点がないことを確認すること。
- (4) 試験中、机の上には、筆記用具、受験票、試験問題用紙、答案用紙、その他指定された文房具以外のものは置かないこと。また、試験中の飲食は禁じる。
- (5) 試験開始後は、参考書籍のほか、携帯電話など電子機器類の使用は一切禁じる。
また、試験開始後は、原則として質問に応じない。
- (6) 試験終了後、この問題は持ち帰ってもよい。

応用地形判読士資格検定試験の注意事項

- (1) 問題は、A 群から 1 問、B 群から 1 問、選択すること。
- (2) 解答は、マス目入り答案用紙に記入すること。
答案用紙には、受験番号と選択した問題番号を必ず記入すること。
- (3) 試験問題の一部で使用している国土地理院発行の地形図は、上を北としている。
- (4) 試験に使用できる文房具は、鉛筆またはシャープペンシル／消しゴム／定規／三角スケール／拡大鏡 とする。

以上

《A群》

A-1. 大規模地震に伴って、特に平野地域（丘陵地を含む）の地盤に関連して発生する地震災害について、以下の設問に合計 800 字以内で解答せよ。

- a) 地震災害の種類（津波災害は除く）を 3 つ挙げ、それぞれが特に顕著に表れた地震名を示せ。
- b) それぞれの地震災害について、災害が発生しやすい（災害の素因となる）地形種を、災害の発生メカニズムと関連づけて説明せよ。

A-2. 古い地質時代の亀裂性岩盤からなる丘陵地に隣接した沖積低地において、土木工事が計画されていると仮定する。以下の設問に、合計 800 字以内で解答せよ。

- a) このような箇所において推定される地下状況や地質構造の可能性について 2 つ挙げ、その理由を解説せよ。
- b) 杭基礎工事ないしトンネル工事のいずれか 1 つを選択し、当該箇所で工事を計画・設計・施工する際の地質リスクと留意点（対応策等）を、地形地質的観点から述べよ。

《B群》

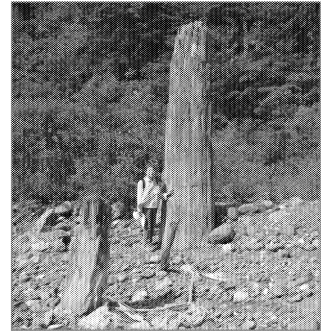
B-1. 山地地域の地殻変動速度を求めるために必要な変位基準について、以下の設問に合計 800 字以内で解答せよ。

- a) 変位の基準となるものを、100 万年オーダーと数～10 万年オーダーに分けて示せ。
- b) それらが変位基準となり、変位量・変位速度が求められる理由を、地形・地質・地史・気候変化などの観点から説明せよ。
- c) また、数～10 万年オーダーでは、変位基準の適用にあたって、条件によっては適用できない場合がある。それはどんな場合か説明せよ。

B-2. 下に示す地形図に太線で囲んだ範囲 A およびその周辺の地形について、以下の設問に合計 800 字以内で解答せよ。

a) 範囲 A の地形の成因について、その地形的特徴を基に述べよ。

b) 右の写真は、地形図に★印で示す地点に露出している樹木遺体（埋没林）で、A の地形が形成された時期に埋没したことが分かっている。このことを考慮して、範囲 A の地形が形成されたことによる影響を受けた場所を下の地形図から 2 箇所以上特定し（ただし、★印の地点は除く）、それぞれの場所の地形的特徴に基づきその根拠を述べよ。



なお、特定した場所は、地形図上の地名、河川名、標高点、地形名などで示すこと。

c) 地形図に示した地点ア～ウの中から、今後範囲 A のような地形が出現する可能性が最も高いと考えられる地点を選び、その根拠と地形的特徴について述べよ。

